

# 里親制度呼び水 アオリイカ豊漁

アオリイカの豊漁が、大月町柏島周辺で続いている。イカの「里親制度」と銘打って、例年の3倍近い人工産卵床を海底に置いたことが呼び水になったとみられる。柏島周辺は、休日には釣り客でにぎわっている。

## 人工産卵床、3倍に

アオリイカの里親制度は、海洋調査やエコツアーなどに取り組むNPO法人黒潮実感センター(神田優センター長)が、今年から始めた。これまで、アオリイカを増やそうと、スギなどの枝を産卵床として海底に固定してきた。里親制度は、この産卵床1個を1万円で購入すると、同島周辺で釣れたアオリイカ1

匹と産卵の様子などの写真がもらえる仕組み。県内外から61口の応募があった。

この制度を使い、例年は30~40個だった産卵床は約100個に増えた。約3倍に増えた産卵床で、たくさんのアオリイカが5~6月ごろに産卵したとみられる。

地元漁師らによると、アオリイカ

は10月ごろから小さいものが取れ始め、11月に入り、500匹から1千匹のものが取れるようになったという。

1日で30匹ほどのイカが釣れることもあり、休日には柏島港付近の桟橋や、船釣りなどに大勢の釣り客が訪れている。

同センターでは、来年も里親制度を続ける予定だ。(高橋正徳)



人工産卵床の回りを泳ぐアオリイカ＝大月町柏島、黒潮実感センター提供